

小児における COVID-19 治療薬に対する考え方（第 1 版）

I. はじめに

COVID-19 は小児において多くの場合は軽症であり、対症療法以外の治療が必要となることは極めて稀である。しかし成人、特に高齢者や基礎疾患を有する場合は重症化しやすく死亡率も高い。ただし、小児においても 2 歳未満では入院例、時に PICU 管理が必要となることがあり、また基礎疾患を有する場合にも重症化に注意する必要がある。

現時点では、COVID-19 に対する薬物治療に関する知見は限られており、特にほとんどの臨床研究は成人を対象としているために、エビデンスに基づいた治療法を小児 COVID-19 患者に適用することはできない。

治療対象の選別や使用開始のタイミングに関しても、抗ウイルス効果を期待して早期投与の有効性が期待されるものもあれば、重症例の免疫病態の鎮静化によって予後改善が期待されるものもあり、まだ流動的な状況にある。

注 1：ここで紹介する治療薬のうち、COVID-19 に適応を有する薬剤は限られており、適応がある薬剤でも小児への使用経験は限られている。したがって、小児 COVID-19 患者に使用する場合はリスクとベネフィットを熟慮して投与の判断を行い、十分なインフォームド・コンセントを得るとともに、各施設の倫理指針に則って必要な手続きを行う事とする。また、治験・臨床研究の枠組みの中にて薬剤を使用する場合には、関連する法律・指針等に準じた手続きを行い、プロトコールに従うべきである。

注 2：欧米で話題となっている multisystem inflammatory syndrome in children (MIS-C)/pediatric inflammatory multisystem syndrome (PIMS) temporally related to COVID-19 の治療法についても知見が集積されつつあるが、本稿では言及しない。